

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102626		
法人名	有限会社そよかぜ		
事業所名	グループホームそよの里		
所在地	香川県高松市多肥上町504番地2 (電話) 087-864-827		
評価機関名	社会福祉法人 香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年6月10日	評価決定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年10月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	12人 常勤 11人 非常勤 1人 常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1部2階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松平和病院 高田整形外科医院	おさか脳神経外科 生協へいわ歯科診療所	たむら内科
---------	--------------------	------------------------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来5年を経過しているだけに、管理者はじめ職員は実践経験もあり、全体的に利用者も落ち着き、介護度の改善が見られたり、新しく入所した方も短期間で落ち着くような対応ができています。運営面では外部の専門家のアドバイザーを入れ、公平で健全な施設運営を心がけている。介護の質向上を目指して、職員研修も全員参加のシステムを構築し、外部の専門家を呼び、介護の情報や介護の技術などを継続的に行っている。また、利用者の思いや意向の把握に努め、できるだけ希望に沿うよう努めている。利用者全体で行うプログラムも充実して、体操やカラオケなど楽しんでいる。利用者が皆それぞれに元気に、自分のしたいことができています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は日常生活における地域との連携がおもだったもので、2か月に1回開催している運営推進委員会では活発な意見交換ができ、地域との交流も増えてきている。幼稚園児の訪問、保育所の運動会見学、多肥夏祭り参加など地域の中に溶け込む姿勢が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は話し合いや問題点を出し合い、管理者が中心に作成している。全項目が一人ひとりの介護の見直しと捉えて取り組んでいくことが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回きちんと行われ、活発な意見交換ができるようになり、運営に取り入れられるものは職員会議で話し合い反映している。委員の方が地域に持ち帰り検討していただき、地域行事の参加など交流が始まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時などに家族とのコミュニケーションを大切にし、要望や意見が出やすいように心がけている。苦情の窓口も明確にし対応できるようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩など地域に向いていく時は、近隣の方への挨拶や声かけを心がけている。近隣の人から花の苗をいただいたり、きれいに咲いた花を見に来るよう誘われるようになった。まだまだ自治会や老人会の世話をするまでには至っていない。今後も地域の中で頼れる存在を目指して地道な努力を望みたい。

2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員みんなで考えた事業所独自の理念をつくり上げて、理念に沿った介護に取り組んでいる。	○	開設以来の理念に固定化されているので、地域の中に住んでいる視点を取り入れた理念を、職員みんなで見直し検討されることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の引継ぎなどで唱和して、職員みんなで理念に沿った介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時など地域の方との挨拶や、世間話など職員一人ひとりが交流に心がけている。近隣の方に花を見に来てくださいなどの誘いを受けるようになり交流している。	○	今後も地道な取り組みを続け、地域の方が気軽に尋ねて来てくれるような施設づくりを、目指されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解し、改善点などは職員全体で取り組んでいる。自己評価は職員から聞き取り管理者が作成している。	○	職員一人ひとりが介護の見直しをする絶好の機会と捉え、自己評価の全項目を一人ひとりが確認できるような取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は会を重ねるごとに活発な意見交換ができるようになり、運営推進委員の仲立ちで幼稚園、保育所との交流なども増えている。多肥祭りなど地域の行事の参加もあり、運営推進会議で話し合われたことが実践に結びついてきている。		


外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらったり、分からないことなど尋ねたりする中で、市の関係の方とのつながりにも心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者が健康状態、日常生活、金銭管理などを毎月便りなどで家族に報告をしている。その他病気など、必要に応じて直接家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の代表に運営推進会議にも参加してもらい、要望や意見を出せる機会をつくっている。また、家族が職員に気軽に話せる雰囲気をつくり、出てきた意見は運営に反映している。苦情箱なども適切に配置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は退職などで時々あるが、管理者は開設以来変わっていないので、利用者の方のダメージを最小限に食い止めることができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回外部の介護の専門職の方を招き、介護の情報や介護の実践が学べる独自の取り組みをしている。超勤などで対応して、全職員が研修を受講できるシステムを構築しており、職員の質向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流もあり、お互いに声掛け合って情報交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の関連施設からの転入もあり、事前に情報交換もでき馴染みながらの受け入れもできている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が職員の健康状態を心配してくれたりする良い関係が築けている。話し合う中で職員が学ぶことが多くあり、双方が支えあう関係づくりができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけや話し合う機会を多くとり、思いや意向を把握し、実現できるものは応えている。利用者がさりげなくよく動き、好きなことをしている場面が多くある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にも声をかけ、医療等関係者の意見を聞き取り、また、担当者の意見も入れ、利用者にとって良い介護計画が作成できるよう心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常3か月に1回の見直しと、現状に即した見直しができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっているため、看護師による健康状態のチェックや協力医療機関の医師による往診など、充実した支援が受けられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが協力医療機関での受診であるが、希望により本人の今までのかかりつけ医の受診の支援もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化、終末期に向けた話し合いや確認を取り立ててはしていないが、関連施設にケアつき老人ホームもあり、その都度家族や医師などと連携を取り対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような対応をしないように、職員間で常に話し合い徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調にも配慮し、その日その時したいことができるよう個別性のある対応を心がけている。身近に花や植物、また、農作業や食事の用意など入居者がしたいことを見つけ、過ごせる環境が整えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホーム内で手づくりの食事が用意されている。食事に関わるすべての作業が利用者にとって身体や心を動かせるよう刺激になり、いろいろな役割が果たされている。利用者と職員と一緒に食事を楽しむ支援ができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午後から自由に入浴が楽しめる。本人が毎日入りたければ毎日でも入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ラジオ体操、カラオケなど毎日みんなでするプログラムも充実している。水やり、食事の準備、片付け、農作業などその人にあった役割があり、利用者が元気に良く動いている場面が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物外出、散歩など、希望に応じて個別に職員が気軽に付き合う支援ができています。季節に応じた全員の行楽外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りは感知できるようにして、鍵はかけない暮らしができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員に来てもらい、定期的な避難訓練や救命処置の受講なども取り組んでいる。また、職員による応急手当の基礎知識などの勉強会もできている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分補給も適切で記録にもきちんと残されている。利用者の方の食欲は旺盛できちんと食べられている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのグループホームが管理棟を中心に上手く設計されていて、独立しながら、行き来もできる仕組みになり、目が良く行き届く。各居室にテラスがあり開放的である。ウッドデッキの中庭もあり、日光や風にもあたる快適な空間である。施設の回りも散歩でき居心地よく過ごせる。花がたくさん植えられて入居者が世話をできる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室もそれぞれ住む人の個性があり、自分らしい部屋になっている。		

※  は、重点項目。